

第4期中期計画 進捗状況報告（令和4年度）

本学では、第4期中期計画に「教育・研究」「学生支援」「管理・運営」「地域連携」の4つの重点項目に合計64項目の実施計画を設定して教育研究活動の推進や学生支援の改善充実に取り組むこととしている。第4期中期計画の2年目である令和4年度は、各部署ともコロナ禍に対応しながらも対面授業を再開する等、学生に対して学修機会を保障することを最優先課題として教育活動や学生支援活動を教職協働で展開するとともに、毎年度、本計画の達成に向けた事業計画を策定して業務推進に努めてきた。

重点項目Ⅰ 教育・研究

教育充実計画で11項目、研究推進計画で5項目の実施計画を策定し、13項目について実施または検討している。

○教育充実計画

コロナ禍においては、教育の質の保証が最優先、最重要課題であり、人数制限を行っての対面授業の展開や遠隔授業の活用により学生の学修機会の保障に教職協働で取り組んできた。学修成果を可視化し指導改善に活用するためのシステムの導入を決定し、必要データの選択や学修成果可視化の具体策等についての検討委員会を設置し令和5年度当初から検討を開始することとしている。また、学修成果に定める目標を理解しやすくして学生の学修成果獲得を向上させるよう、カリキュラムマップの更新も行った。時代や社会のニーズに対応したカリキュラム編成にむけた検証や免許・資格等の取得率向上を支援するためのプロジェクトを開始し、教職協働で進めている。

着手できていない項目もあるが、改善や実施の必要性は認識されており、令和5年度に担当部署と関連部署との連携により検討を行うこととしている。

○研究推進計画

北方圏生涯スポーツ研究所では、スポルクラブ会員や部活学生の協力により収集したデータを活用し、自治体への運動指導プログラムを策定するなど、一部ではあるが研究成果を地域に還元することができた。ただし、コロナ禍のため、被験者であるスポルクラブ会員や学生の活動制限もあり、組織だった研究推進には至っていない。国の科学研究費や自治体の補助金等の活用も含めて従来の取り組み、対応を充実しながら研究活動を進めているが、新たな研究推進や研究支援の体制整備については令和5年度以降の着手を予定している。研究成果のオープン化をはかるため、本学教員の論文については、図書館において北翔大学学術リポジトリへの登録を推進しているところであるが、雑誌投稿した論文については雑誌社に著作権があることから、見合わせることにしている。

重点項目Ⅱ 学生支援

学生生活支援計画で8項目、キャリア支援計画で6項目の計画案を設定し、13項目について実施または検討している。

○学生生活支援計画

遠隔授業で利用している「Teams」を活用し、教員と学生がパソコン等を通してリアルタイムで対話や相談等に対応している。障がい等の多様な背景を持つ学生に対しては、支援担当部署が中心となり、各関係部署と情報を共有しながら個人の状況に応じた支援を行っている。また、学生の挑戦を応援する新たな奨学金制度を創設し、令和 5 年度からの運用を開始している。環境整備では、学生や卒業生に対するアンケート調査（要望）で施設設備に対する意見を聴取し、施設設備委員会で検討し、冷房設備設置計画を策定し実施している。

着手できていない項目もあるが、実施の必要性は共有されており、令和 5 年度で検討を行うこととしている。

○キャリア支援計画

すべての計画に対し、検討も含めて着手している。企業説明に留まらず、職業に関する魅力を理解してもらうため OB・OG を含む現場担当者による説明会をゼミナール単位で実施している。また、企業アンケートの結果をデータ化し、各教員が共有しキャリア指導へ活用できるようにすることで、企業に合わせた具体的な指導へ繋げることができた。教員採用については、道外からの本学に対する大学推薦枠も学内周知し、道外出身者の地元での教員採用を支援している。本学卒業生教員ネットワークの拡大へ向けた現職教員研修会については、コロナ禍の影響から実施できていないため、今後の再開に向けて検討を進める。公務員採用に向けて、セミナーを開催するとともに個別指導を充実することによって採用増に繋げることができた。

重点計画Ⅲ 管理・運営

経営基盤安定計画で 17 項目、キャンパス整備計画で 6 項目、入学者受け入れ計画で 3 項目、大学広報計画で 3 項目の 29 項目の計画案を設定し、28 項目について実施または検討している。

○経営基盤安定計画

多くの計画を設定している中で、ほぼ全ての計画に着手できている。収入に応じた予算編成を徹底するとともに、特定資産の目的や金額を理事会が主導して設定するなど、収支の健全化に向けた取り組みを続けている。カード型行動指針を教職員に配布するとともに、外部講師による SD 研修会やコンプライアンス研修会等を開催するなどして教職員の資質の向上を図った。また、定年延長等、就労に関するプロジェクトチームによる改善提案については、教職員への説明会を実施するとともに、必要に応じ個別に職員への説明を実施するなどして、職員の理解を得ながら定年を 65 歳へ延長すること、週休 2 日制にすること等を決定し、令和 5 年度から実施することとして規程の改正を行った。

○キャンパス整備計画

安心・安全な学修環境の整備に向けた施設設備やキャンパス整備については、これまで同様、予算の範囲内で優先順位を付けて計画的に実施するとともに、急ぐものについては補正予算を組んで対応した。今後も学生の満足度向上につながる環境整備に向けて学生や卒業生からの要望も反映させながら、管理委託業者の協力を得て取り組んでいく。ICT 教室の整備に伴い、活用方法や技術支援を目的とした教職員への説明会や相談会を実施している。

○入学者受け入れ計画

概ね計画通りに検討し、実施されている。令和 7 年度入学者対象の新入試制度については、ホームページで周知し、文部科学省が求めている 2 年前告知に対応している。学生確保へ向けた情報の発信は、日常的に検証し速やかに Web メディア等を活用しながら進めている。留学生や社会人学生の確保については計画通り令和 5 年度から検討を開始することとしている。

○大学広報計画

教育研究活動や学生の活躍、自己点検評価の結果等は、適時 HP に掲載し公表している。教育・学修の成果や研究成果の効果的な発信については、研究センター年報や研究紀要等の発刊や報道機関への発信等に加え、更に効果的な方策について検討し実施していく予定である。学外への情報発信だけではなく、教職員における行動指針や本学のブランドイメージの共有などインナーブランディングの手法について検討している。

重点項目Ⅳ 地域連携

地域連携計画で 3 項目、地域貢献計画で 1 項目の計画案を設定し、4 項目について実施または検討をしている。

○地域連携計画

えべつ未来づくりプラットフォーム事業として、「江別 4 大学共創リカレント教育ワークショップ」や「江別学」を 4 大学で開講している。包括連携協定事業や高大連携事業においては、コロナ禍によって対面実施規模は縮小する一方、オンラインツールの活用などの工夫を行うなどして効果的に実施した。協定校の要望に合わせながら、オンラインを活用するなどして、本学の教育内容の理解を深めることができた。

○地域貢献計画

地域食堂・子ども食堂は地域の方々の協力のもと、提供内容や方法を工夫して教員と学生で継続して実施した。コロナ禍にあつて地域住民向けの講座は中止したが、教養講座や公開講座はオンラインで実施し、生涯学習の機会を提供することができた。また、学生自治会、学科、担当部署、同窓会が連携・協力し、近隣の幼稚園児が描いた絵をプロジェクションマッピングするなどのクリスマスイベントを開催し、地域の方々にも楽しんでいただくことができた。本学の特長を生かした企画や取り組みや活動の拡大については今後も段階的に検討し実施していく。